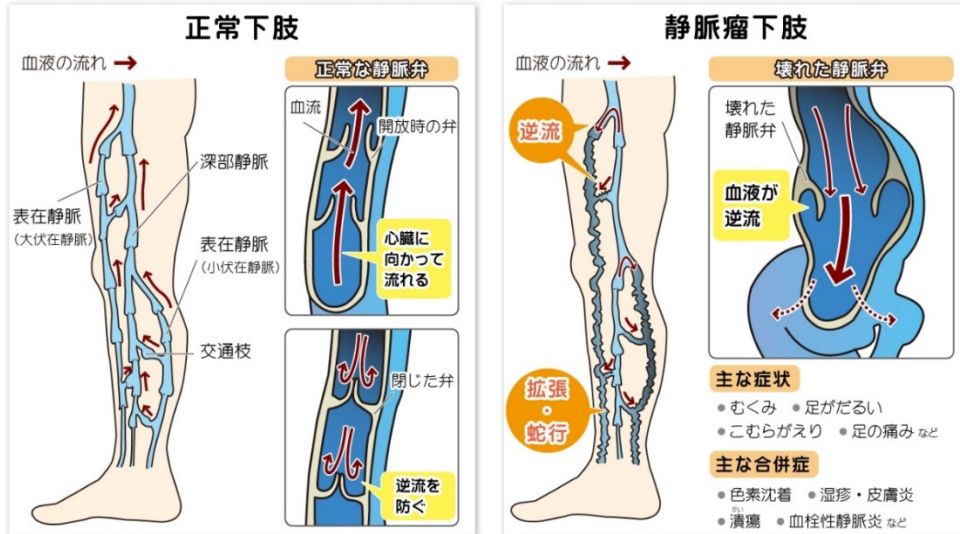


下肢静脈瘤の治療「高周波血管内焼灼術」について～導入から1年

足がだるい、むくむ、つる、かゆい、血管が浮き出ているなど、足の静脈瘤にはさまざまな症状が見られます。これらの症状は、静脈の逆流防止弁が壊れてしまったことが原因です。

(この壊れてしまった静脈についての詳細は過去のメディカルコラム(2013年10月2日付け掲載)、もしくは下記の図をご参照ください)



従来、下肢静脈瘤の治療として一般的だったのは、弾性ストッキングで足を圧迫して血流を良くする圧迫療法や、静脈の弁が壊れて血液が逆流している静脈を特殊な器具で引き抜くストリッピング手術などでした。

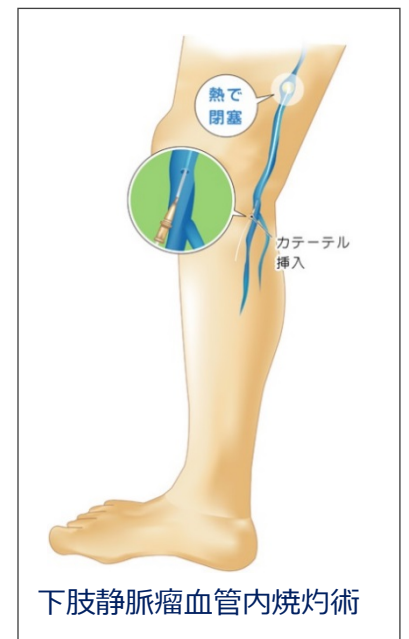
しかし、2014年6月からは、新たに高周波による「下肢静脈瘤血管内焼灼術」が保険で治療できるようになりました。この治療は、静脈瘤の原因となる静脈を「引き抜く」のではなく、カテーテルという細いチューブで静脈を「熱で焼いて閉塞させる」治療です。(左図) この治療法により静脈血の逆流がなくなり、様々な症状の改善を図ることができます。

そして、従来のストリッピング手術と比べると、

- ①メスで切ることがないため、
- ②傷が目立たない
- ③術後の痛みや内出血が少ない
- ④入院の必要がなく、日帰りで治療が受けられる といったメリットがあります。

手術中はリラックスしてお休みいただける静脈麻酔を併用しますので、手術中は痛みや不安を感じることはありません。目が覚めたら治療が終わっていますので、ご安心ください。

当院では2015年1月からこの治療法を導入しました。実際にこの治療を受けた患者さんからは「手術中は痛みも不安も全く感じなかった。こんなに楽な治療方法があるならもっと早く受ければよかった」との声をいただき、大変好評です。



最近ではインターネットや地域の先生方からのご紹介で、治療をご希望の患者様が増えています。この治療方法にご興味のある方は、当院心臓血管外科の担当医まで、お気軽にご相談ください。

心臓血管外科部長 齋藤 陽

